



第97号

鯉洲学園同窓会

# 同窓会報

令和6年9月30日

発行：鯉洲学園同窓会

〒319-0323

茨城県水戸市鯉洲町 5965

TEL：029-259-2811

FAX：029-259-6965

http://koibuchi.main.jp/

メールアドレス：koibuchidousou@gmail.com

## 同窓会長あいさつ



黒澤 賢治  
(25期卒)

### 能登半島地震に関する義援金の協力御礼

1月1日に発災した「能登半島地震」に際しましては、石川県をはじめ、隣接する富山県・新潟県にわたる広域での被害が発生し、新年の希望に満ちたスタートも一瞬にして吹き飛び、「同窓生の安否」と「関連災害の矮小化」を祈っております。翌日からはメディアをはじめ多くの報道が発信されるに至り、被災県の実情も刻々と全国を駆け巡り、とりわけ「能登半島」という地理的側面」から被災物資の搬入や被災応援等の困難さが当初より露呈し、被災実態把握が手間取り、同窓会としての対応も6日からのスタートとなりました。

多くの全国の同窓生からの温かい支援が元となり、公益財団法人鯉洲学園、鯉洲学園農業栄養専門学校、鯉洲学園同窓会の3者が一体となり、同窓生被災者の支援依頼を実施し、多くの「義援金」を関係同窓会支部に御届けすることが出来ました。本格的な生活再建が徐々にスタートし、1日も早い平時の生活が被災された同窓生に届く事を願わずにはいられません。

### 同窓会の気持ちを届ける「義援金」の配布と支援に向けた行動の実施

同窓会活動の中で、被災者支援対策が果たして出来るのか、あるいは、実際、被災者の再建策樹立の御役に立てるのか、大きな不安を抱きつつ「義援金」の集約を実践して来ましたが、過日、若林副会長の同行を得て、石川県（総務省の被災区分による激甚被災地）と富山県（氷見市以北地域）の両県に御伺いし、石川県宮崎支部長と富山県氷見市山本さんに「見舞金・弔意金」を御渡しする事が叶いました。

今後は被災者の生活再建や全壊住宅等の再建取得・改修等に併せて、同窓生の皆さんから負託された「義援金の拠出」を順次、実施してまいりたいと考えております。「義援金」を付託頂きました同窓生諸兄に対し深く御礼申し上げますと共に、「能登地震被災同窓生」の復興・再建を念じてやみません。

### 創立80周年の節目の年を迎えるにあたり

2025年は本学園が建学以来多くの苦難と正面から戦い、あるいは先輩諸兄の御努力により、「創立80周年」の記念すべき年を迎えます。幾多の困難を何とか乗り越え、全国に7,800名余の卒業生を輩出し、「日本農業・食品栄養会」の一翼を担い、独特の教育理念と「全寮制自治会制度」によって体現して来た学園教育は、他に例を見ない存在感を発していたことは歴史的に事実であり、賛否両論はあるものの、地域や圏域の「農的主要課題」を農民・協同組織人・公務員・民間会社員として、新た

な産業構築や組織創造更には地域社会発展に真摯に取り組みチャレンジして来た7,800人余の同窓生と「産業人材」として活用頂いた地域住民各位の支援の賜物と「関係人材」に感謝を申し上げる次第です。

新たなニーズや価値観が醸成され、そのスパンは極めて短く、新たな価値体系が創造され繰り返されています。創立80周年を迎えるにあたり、「鯉洲学園」のブランド価値が高揚出来る節目の年となる様、同窓生、(公財) 鯉洲学園、鯉洲学園農業栄養専門学校の3者が、「鯉洲学園の存在感」「教育方針の再考」「学園の人材育成」「新たな時代ニーズ」等を真摯に論議し、「創立80周年」を迎えたいと願う次第です。

### 「鯉洲学園」の生き残る路は「教育のオリジナリティー化」

学園の最大の課題は「入学生の確保」にあると言っても過言ではありません。とりわけアグリコースの入学生の急激な減少が目を見せます。教育スタッフは農学部を有する他大学に勝るとも劣らない陣容であります。就学生のエリアが狭小化し、従来の全国区化は近年退潮化し、学園の「寮制度」「学園食堂」も教育活動としての星をなしていません。「鯉洲学園」でしか出来ない教育」を創造する事を切に望む次第です。人材の養成には「金と時間」が掛かる事は周知の事実だと認識しております。

「創立80周年」を学園再生のスタート年とする事、そして「鯉洲学園」は挑戦し続ける学園でありたいと望むばかりです。



## 副学園長あいさつ



副学園長  
平原 信男

### はじめに

本年度4月より本校に着任いたしました平原信男でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は、福島県公立学校教員、教頭、上海日本人学校副校長、町教育委員会指導主事、校長を歴任し、3年前に退職しました。この度縁あって鯉淵学園の副学園長に就任いたしました。昨年度より理事として「授業改善」に向けて職員の授業を参観してきましたが、十分な時間をかけることができませんでした。その1年後の副学園長就任となりました。

### 学園の経営方針・理念の重み

新理事長森啓一氏のもと、本学園が新たな出発をして2年目となり、さらなる改革、改善を進めることが本学園の繁栄を確かなものにするものと思います。

今年度のパンフレットの「理事長メッセージ」には、次のような言葉が残されています。

○教育の本質は個人の完成にあり、確固たる信念により動き、自己の責任を果たし、よく社会を担う人物となる

○農業を通じ、国家再建に命懸けで取り組む人物を育成する

これら開学以来の目標を踏襲し、

○これまで鯉淵学園が大切にしてきた価値観教育、人格教育、実践教育を通じて、日本の農と食に大いに貢献できる人材を作り上げる。

本校には、アグリビジネス科、食品栄養科の2学科があるわけですが、単に農にかかわる人材、栄養士という資格をもって働く人材を輩出するだけではなく、右に示した高い理想と信念を軸とした人材を輩出していくことが、本校の理念であります。

「価値観が多様化した現代」と言われますが、多様化した価値観は分断をもたらしますし、話し合って解決するには幾多の困難も生まれます。昔の常識が今の非常識となっているのは、価値観の崩壊に近いとも言えます。時代は変わるといえども、変わらない「不易の教育」をなくしてはいけないと思うのです。右の理念や、目指すべきところは、大変重い命題であると思いますし、しかし目指していかなければならない命題でもあると思っています。

### 新体制の構築

常勤として毎日勤務してくると、これまで見えなかったことが見えてきたり、思っていたことがそうではなかったりと、一長一短、様々に少しずつ分かれ出しています。新しい風として良い方向へ吹いていけるようにしたいと考えています。

本学園の本来あるべき体制の構築に向けて機能的組織的に動いていけるための方向性を見出し、改めて体制の再構築をしていくこと、また、昨年度来、「真生鯉淵」を謳い出発したことを機に職員体制のゆるぎない一体感の醸成や学生の本分を全うできる教育の在り方を模索し「真生」していく所存ですので、今後ともご指導・鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 鯉淵学園教育の近況と学生募集協力へのお願い



入試支援室 室長  
前嶋 智

日頃より本校事業にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

本校では令和5年度にスタートした新たな体制のもと、今年度もさらなる教育事業等の拡充に取り組んでいます。

### 農と食の再融合

農と食の実践的な教育に取り組んできた本校ですが、両分野の融合については様々な模索を重ねてきました。私が入職した3年制時代とその後4年制時代は、現在より長い期間「農」と「食（栄養士）」を互いに意識できていたようです。また、全寮制度も異分野の融合にプラスに働いていたものと思われまます。その後、2年制への学制変更や希望寮制度の導入に伴い、両学科の生徒が互いの分野を意識できる機会はやや減少したようです。くわえて、近年の専門学校に求められる高度な実践力を2年間で身につけるため、両学科とも専門科目の講義および実習に力を入れた教育を強化し

てまいりました。結果として両学科とも毎年高い就職率を維持するなど現場の要請にこたえる職業人教育を継続できていますが、農と食の繋がりについては他校にない特色として保たれてはいるものの、その深化には課題を残していると感じられていました。

このような状況下で農と食の融合的な教育を再度発展させるための取り組みを進めています。具体的には人事・組織面の見直しや、外部企業との連携も得ながら実施する両学科を横断したプロジェクト活動などが当たります。多くの活動は緒に付いたばかりで、現在いる生徒の在学中にどの程度の成果が得られるかは未知数ですが、職員・生徒が分野を横断しながら活動する経験は将来役に立つものと期待しています。

### 学生募集協力へのお願い

学生募集は厳しい状況が続いていますが、今年度は公式インスタグラムを集約的に運用するなどSNSを活用した募集活動をさらに強化しています。同窓会諸氏におかれましても、可能な範囲で本校入学生獲得に向けPR等にご協力を頂けましたら幸いです。



## 鯉淵学園教育研究報告第34号のご紹介



教育研究報告  
編集委員長  
野口貴彦

教育研究報告編集委員長の野口と申します。日頃から卒業生の皆様には本校の教育についてご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

鯉淵学園 教育研究報告（鯉淵研報）第34号（報文2報、事例報告2報、解説2報の計6報を掲載）を令和6年3月に無事発行することができました。論文は、報文として岩部博子先生（非常勤講師）の「摂食障害患者（神経性やせ症）における投与エネルギー量の検討と栄養指導の考案」と高田良三先生（アグリビジネス科）の「肉用鶏飼料への酵母RNA添加が飼養成績に及ぼす影響」が、事例報告として浅津竜子先生ら（食品栄養科）の「栄養士養成課程学生の調理技術向上を目的とした『調理技術検定』の導入」と勝山由美先生ら（食品栄養科他）の「栄養士養成課程における『食農・食育』教育の取組み」が、解説として新井波音先生（食品栄養科）の「集団給食系実習の大量調理における疲労度調査について」と永井亜委先生ら（食品栄養科）の「健康日本21（第三次）」が目指すもの」が掲載されました。これらの論文は、本校の「農と食」教育の更なる発展と充実に対して十分に貢献できる内容となっております。

ます。ここでは、各論文の詳細については割愛させていただきますが、本校公式ホームページに鯉淵研報のデジタル版を公開していますので、そちらをお読みいただくと幸いです。

現在は、第35号の編集委員会を立上げ、年度末の発行（令和7年3月）に向け準備に入っております。編集委員長は、野口（分子生物学）が留任（二期3年目）となり、編集委員に高田良三先生（家畜栄養生理）、前嶋智先生（作物保護）、浅津竜子先生（給食管理学）、幹事長に平澤朋美先生（有機野菜）、幹事に勝山由美先生（栄養指導）がそれぞれ留任となりました。また、この鯉淵研報は、「鯉淵学報」として創刊（昭和46年9月）されましたが、そこには昭和44年の同窓会常任委員会の席上で「同窓生が中心となつて鯉淵学園でなければ出せないような内容の雑誌を作ろう」という機運が高まり、平山嘉夫氏、張替誠一郎氏を中心に編集委員会が発足すると、掲載論文は「農業指導、行政、研究の報告」として「優良事例・資料等で、農政と指導現場の触媒となるようなもの」と決まると記されています。この様に「鯉淵学報」の創刊には、当時の卒業生の方々の農業振興に対する強い思いが込められていたことが伺えます。この鯉淵研報は、この後も第50号、更には第100号の発行を目指していくべき価値のある学術誌であると信じています。誌面の更なる充実のために卒業生の皆様からも論文の投稿をお待ちしております。

## 鯉淵学園農業栄養専門学校の主な教員紹介

|      |       |                    |
|------|-------|--------------------|
| 教 授  | 長谷川量平 | 学園長、博士（農学）、フードシステム |
| 客員教授 | 入江三弥子 | 茨城県栄養士会元会長、調理学     |
| 客員教授 | 島崎 弘幸 | 博士（理学）、特別講義        |

### 農業技術センター

|       |       |                         |
|-------|-------|-------------------------|
| 准 教 授 | 秋葉 勝矢 | センター長、農業機械              |
| 講 師   | 鈴木 一広 | 副センター長・研修園芸農場長、生産加工販売実習 |
| 助 手   | 高瀬 努夢 | 畜産農場長、生産加工販売実習          |
| 講 師   | 田口 房男 | 農業実習                    |
| 講 師   | 田山 和実 | 生産加工販売実習                |
| 助 手   | 大槻 将太 | 生産加工販売実習                |
| 助 手   | 酒井 祐介 | 生産加工販売実習                |
| 助 手   | 川藤 直道 | 生産加工販売実習                |
| 助 手   | 根元 俊介 | 生産加工販売実習                |

### アグリビジネス科

|     |       |                      |
|-----|-------|----------------------|
| 教 授 | 高田 良三 | 科長、博士（農学）、畜産・飼料栄養生理  |
| 教 授 | 前嶋 智  | 副科長、修士（農学）、作物保護      |
| 教 授 | 井上 洋一 | 博士（農業経済学）、農業協同組合論    |
| 講 師 | 平澤 朋美 | 有機農業・土壌              |
| 教 授 | 藤井 義晴 | 博士（農学）、有機農業（e-ラーニング） |
| 教 授 | 中原 正一 | 修士（農学）、総合防除（e-ラーニング） |

### 食品栄養科

|       |       |                 |
|-------|-------|-----------------|
| 教 授   | 大熊 哲仁 | 科長、食材生産         |
| 教 授   | 野口 貴彦 | 副科長、博士（農学）、生化学  |
| 教 授   | 浅津 竜子 | 副科長、管理栄養士、給食管理学 |
| 教 授   | 小林 秀行 | 博士（農学）、食品学      |
| 准 教 授 | 若林 陽子 | 管理栄養士、栄養学       |
| 講 師   | 勝山 由美 | 管理栄養士、栄養指導論     |
| 助 手   | 高崎 瑞穂 | 管理栄養士           |
| 助 手   | 泉田 光  | 管理栄養士           |





食品栄養科長  
大熊 哲仁

食品栄養科科長に新任しました大熊と申します。日頃から、卒業生と関係各位には本科教育へのご理解とご支援を賜り、真に感謝しております。

このたび、アグリビジネス科としての教員・副学科長の職を解かれ、食品栄養科学科長に任じられました。1995年の入社以来、農業者育成を中心とした業務を分掌してきましたので、まだまだ、栄養教育について自己研鑽が必要な状況です。

特に、本科卒業生各位へご心配をおかけしていると思いますが、今後におきまして、各位からいただきます。ご教示を活かし努力してまいりますので、一層のご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 2023年度（令和5年度）卒業生の動向

2023年は新型コロナウイルスの5類移行、インボイス制度開始などもあり、様々な活動が再始動・活発化しましたが、記録的猛暑、ガソリン価格過去最高など、就職活動にも厳し

き時期もありました。そのような中、2023年度は26名を無事卒業・就職させることができました。

ここ数年いずれの年も就職率95%以上を維持してきましたが、5年度は就職率100%を達成しました。また、同年度卒業生に対する求人数は延べ160件、うち、栄養士求人数は121件と学科定員の3倍ほどとなり、健康意識の高まりや社会の高齢化などを背景に、栄養士ニーズの高さが継続していることを実感しています。

就職先としては、栄養士就職88%（23名）、調理員8%（2名）のほか、1名が大学編入をしました。栄養士としての就職先は、エムサービス株式会社、日進医療食品株式会社など給食関連企業17名（栄養士就職の74%）、福祉施設2名（栄養士就職の9%）、その他4名（栄養士就職の17%）でした。

## 結びに

卒業後、様々な厳しさに直面することもあると思いますが、「栄養の指導」を学んだ者として、また、時代と次代を担う食業人として、すべての人々からの「自己実現を目指し、健やかによりよく生きる」とのニーズに応えるため、栄養士の尊厳と責任を自覚した社会人になってほしいと願うばかりです。

## アグリビジネス科卒業生の最近の就職動向について



アグリビジネス科長  
高田 良三

アグリビジネス科の令和5年度卒業生の就職動向について報告します。卒業生の総数は16名で、その内就農（自営）1名、農業法人7名、協同組合等3名、農業関係民間企業3名、公務員1名、その他1名でした。

## 具体的な就職先名

農業法人関係では、蒼空農園（茨城県下妻市）、TOSIファーム（埼玉県深谷市）、柴崎尚（44期生、茨城県下妻市）、（有）アクト農場（茨城県東茨城郡茨城町）、岩崎農園（茨城県東茨城郡茨城町）、清水畜産（埼玉県大里郡寄居町）、（有）上別府種畜場（鹿児島県鹿屋市）でした。協同組合関係ではJA常陸（2名、茨城県常陸太田市）、茨城県畜産農業協同組合連合会（茨城県水戸市）、農業関係民間企業では水戸中央青果（茨城県水戸市）、瑞穂農場東大岩間分場（茨城県笠間市）、つくば乳業玉里工場（茨城県小美玉市）でした。

た。公務員は自衛隊（神奈川県横浜賀市）、その他は王子パッケージ（株）でした。就職希望者は全員が就職でき、就職率は100%となりました。

## 本学園の就職先の特徴

就職先の特徴として、自営（後継者）や農業関連組合、農業関連民間企業など、そのほとんどが農業に関係しています。これは本学園の教育目的である「農業の現場で働く人材を育成する」に十分に合致しており、本学園を卒業した若者たちがこれからの日本農業の発展に少しでも貢献していただくことを期待しています。

## 卒業生のその後

ところで、最近では比較的短期間に退職する卒業生が少なからずいるようです。これは必ずしも卒業生側に問題があるのではなく、就職先の労働環境が現在の若者には合っていないことも多いようです。せっかく農業関係に就職したのですから、できるだけ長く農業関連分野で働いてもらいたいものです。







アグリビジネス科  
畜産コース

### 1年 小松真優

私の家は酪農業と稲作をやっています。幼い頃からたまに家の手伝いなどをしていました。トラクターで畑を耕したり、牛の世話をする父を見ているうちに、私は家の仕事を継ぎたいと思いました。ただ、高校の途中までは他の仕事にも興味があったため普通高校に通っており、農業のことは家の手伝いしか学ぶ機会がありませんでした。農業関係をしっかり学ぼうと進学を考えたとき、座学よりも体を動かして覚えるのが得意なことを踏まえ、実践的に体を動かしながら学べる鯉淵学園に魅力を感じました。また、人工授精師や家畜体内受精卵移植師の資格が取得できると聞き学園への入学を決めました。

授業や実習では分からない事も多いですが、先生や先輩と同じ1年生の友達に教えてもらいながら楽しく学んでいます。将来、家の仕事を継いだ時に分からない事がないように2年間の学校生活で技術や知識を身に付けていきたいと思っています。



食品栄養科

### 1年 小林姫向

私は、給食関連の職に就きたいという目標をもち、鯉淵学園農業栄養専門学校に入学しました。その目標を達成させるために「様々な知識を深め、資格取得に努める」そして「積極的にコミュニケーションをとる」という抱負を立てました。

目標を持って専門学校に入学したからには勉強を一番に頑張りたいと思っています。一回一回の講義を大切に取り組むことはもちろん、家に帰ってからも復習をして栄養士実力認定試験でA判定が取れるようにしっかりと勉強に取り組んでいきたいと思っています。そして、コミュニケーション能力を鍛えるために学校行事などにも積極的に取り組んでいきたいと思っています。栄養士という仕事はコミュニケーションなしでは成り立たないと思います。そのため、仲の良い友人だけでなく先生や先輩とも積極的に関わっていききたいと考えています。

この学校に入学して勉強面だけでなく人としても成長していけるように自分で努力し、後悔のない学生生活を送ってみたいです。

## 新入学生 の抱負

私は埼玉県出身で実家は非農家ですが、小学生の頃に農業体験をしたことがきっかけで農業に興味を持ちました。去年は夏休みに鯉淵学園に体験入学をして、楽しく実習ができ入学を決めました。

鯉淵学園は農場実習や機械実習、座学があります。実習では初めてのことがほとんどで分からないことばかりですが、先生方や先輩方が優しく教えてくださるのでとても楽しく学んでいます。実習では初めて自分でトラクターを運転して耕耘しマルチ張りをしました。さまざまな作物を育てながら一粒の種から作物を収穫するところまで見る事が出来て面白いです。座学では土作りの基本から学ぶことができるため分かりやすいです。また、友人と分からないことがあれば共有して教えてあげています。何事もみんなで助け合いながら出来るためとても楽しいです。

この2年間に有意義なものとする為に、何事にも積極的に取り組みたいと思います。将来は学んだ事を活かして就農したいです。



アグリビジネス科  
アグリビジネスコース

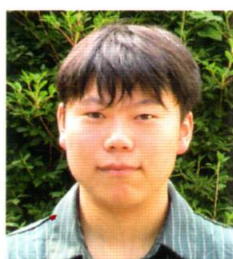
### 1年 池田素直

私は、学校給食センターの栄養士を目指し、今春、鯉淵学園農業栄養専門学校に入学しました。その夢を実現するために、以下の抱負を立てました。

まずは、調理技術の更なる向上です。「食」について理解を深めるためにも、自分の調理技術が伴っていないと考えると、この2年間の課題にしていきたいと思っています。

次に、定期テストや栄養士実力認定試験で最高評価を取る事です。そのためにも、普段の講義・実験実習を大切に、分からない点や苦手な点は、先生方への質問や調べ学習を行い、栄養や栄養士業務に関する知識を伸ばしていきたいと思っています。

また、卒業後は実務経験を積み、管理栄養士免許の取得を目指しています。卒業後も勉強を怠ることなく、学校給食センターの栄養士として安全でおいしい給食提供ができるよう取り組んでいきたいと思っています。



食品栄養科

### 1年 高橋達矢



# 農業技術センター 研修事業の取り組み



農業技術センター  
センター長

秋葉 勝矢  
(46期卒)

## 農業技術センターとは

学園内に「農業技術センター」という部署があります。このセンターでは研修・園芸農場、畜産農場、農産物直売所を運営しており、また、公共機関や企業などからの委託研究試験、講習等を行うなど、業務は多岐にわたります。その中でも今回は研修事業への取り組みについてご紹介します。

## 研修事業の内容

当センターでは様々な研修事業をおこなっており、保育園、幼稚園、小・中学校の体験学習をはじめ、大学生（東京農業大学国際食料情報学部）の農業基礎実習、そして社会人研修など、これまで年間受け入れ人数は、県内外から延べ850～900名を数えています。今年度は1,000名超の研修・実習を受け入れる予定であります。こうした数々の研修の中に、新規就

農や農業関連企業・法人等への就職を目指す、社会人を対象とした研修及び訓練事業をご紹介します。

## ○チャレンジ！ファームスクール

チャレンジ！ファームスクールは元々農林水産省の「農業再チャレンジ支援事業」としてスタートしました。現在は本校独自の研修事業として実施し、1年間コースと6ヶ月間コースがあります。随時入校可能ですが、4月または10月の入校希望者が多数を占めます。

研修生の殆どが農業未経験者です。で、主な研修内容は農場での実地基礎



ねぎ苗定植



土壌実験

研修ですが、本科生が受ける講義・座学も聴講することが出来ます。

昨年度は1年間コース3名、6ヶ月間コース1名で、研修修了後は農業法人への就職や新規就農を果たしました。また、今年度の研修生は1年間コースに1名が在籍し、学生寮に居住しながら現場での実習をメインとするほか、「園芸基礎」・「農業簿記」・「有機農業」などの座学4～5科目を聴講しています。

## ○農業者育成科

農業者育成科は茨城県がおこなう公共職業訓練事業で、離職者を対象とした数ある職業訓練のうち、農業分野の講座を鯉淵学園で受託し、毎年10名が7ヶ月間の訓練をおこなっています。

こちらの訓練生も農業未経験者が殆どです。で、本科生のカリキュラムとは別に独自の基礎カリキュラムで座学も入つつ、実技を中心に研修をおこなっています。

今年度は9名が6月3日より訓練を開始し、12月25日までの約7ヶ月間、座学183時間・実技744時間の合計927時間を本校で研修し、新規就農や農業関連企業などへの就職に備えます。

## 最後に

今回は2種類の研修・訓練事業をご紹介しましたが、それぞれ幅広い年齢の研修生達が農業を基礎から学び、農業簿記検定や農業技術検定、各種機械操作などの資格取得を目指すとともに、在校中は本科生との交流も盛んにおこなわれております。

こうした様々な研修事業の取り組みを卒業生のみならずまへ発信させていただくとともに、本校で研修生達の日々の様子をご覧になっていたければ幸いです。





# 学園ニュース

過去1年間、同窓会ホームページ  
(<http://koibuchi.main.jp>)に掲載された  
学園の主なニュースをご紹介します。

## 令和5年10月 「いも掘り大会が行われました」

学園の圃場で、近隣の幼稚園や小学生の子供達によるさつまいも掘り大会が行われました。

初めての経験だとは思いますが、夢中になって大きなさつまいもを上手に掘る様子がとても可愛らしかったです。



## 令和5年11月 「第77回学園祭・いちよう祭り」が開催されました

11月11日  
(土)、第77回「学園祭・いちよう祭り」が開催されました。

今回も出店やキッチンカーがたくさん並び、多くの来場者で賑わいました。

野菜の直売も大人気で、学園圃場で栽培されたネギや大根、その他多くの野菜が飛ぶように売られています。

その他、食品栄養科による教育展示や、体験イベントとして「バター作り」や「牛の搾乳」そして「芋ほり」も行われていました。



## 令和6年1月 「学園内の環境整備が進められています」

毎年秋に

行われる学園の一大イベント「いちよう祭り」のシンボルでもある



「いちよう並木」ですが、ここ数年の間はその栽培管理が十分には行われておらず、大木となつたその枝が伸び放題の状態でした。



その巨大ないちようの木に、昨年から学園内の環境整備を行って頂いている宮下理事さんが、剪定作業に取り組まれています。小型のクレーン車とチェーンソー等を巧みに使われ、見事なまでに剪定作業を行っておられました。本当にありがとうございます。



## 令和6年5月 「能登半島地震で被災された卒業生の活動が地元新聞に紹介されました」

今年元日に発生した能登半島地震の被災地(輪島市)で、23期生の水口美子さんが、仮設住宅を巡回するスタイルでの「朝市」を実施され、その様子が地元新聞に紹介されました。

水口さんは、震災後近所の公民館などで2ヵ月ほど避難生活を送られた後、自宅に戻って片付け作業を続ける中、一念発起され組合員有志の皆さんと軽トラックに自家製野菜や加工食品を積んで、仮設住宅などを巡回されているとの事です。厳しい環境の中、本当にご苦労様です。







## 鯉淵学園 25期会 in 湯沢

令和4年10月4日から5日にかけて、新潟県南魚沼郡湯沢町のホテル「双葉」において25期生の同期会が開催され、全国から29名が参加しました。  
今回は本年11月に和歌山県での開催です。



## 福井県支部 同窓会の開催

令和5年10月20日、福井県支部の同窓会が開催されました。

学園からは長谷川学園長も出席され、初参加の方を含め34名の参加となり盛況に開催されました。

通常は2〜3年間隔での開催でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により7〜8年ぶりの開催になりました。

長谷川学園長より学園の近況をお聞きし、有意義な一時を過ごす事が出来ました。閉会前に寮歌を歌い、再開を誓いながら散会となりました。



## 23期生、4年振り に静岡に集合

令和5年10月29日(日) 30日(月)の日程で、第16回23期生同期会を富士の裾野、御殿場高原一時之栖(ときのみか)において開催しました。

前回(令和元年)、北陸・新潟大会で、23期のお姉さんと皆が認める新関さんに東海地域での開催をお願いして別れたのですが、新型コロナウイルスという生憎の事情で延びに延び、今回やっと開催する事が出来ました。



待ちに待った同期会、北海道から沖縄まで61名(同伴者含む)が早くから富士の裾野に集合！卒業以来というメンバーもあり、卒業時の顔写真も準備され、楽しい再会となりました。

宿泊したホテルの部屋の窓からは目の前に大きくそびえる富士山を望み、夕暮れから朝まで、その変化を横になりながら眺める事も出来ました。

宴会後は、イルミネーションや温泉、二次会を楽しむ旧交を温めました。

二日目の朝食後、解散となりましたが、グループや夫婦で貸し切りバスや借上げタクシー、レンタカーなどを準備し、各自で旅行を楽しみました。

今回の開催地は茨城かな？

## 兵庫支部だより(第17号)が発刊されました

支部だよりを平成24年1月より発行されている兵庫支部より、第17号発刊のご連絡を頂きました。同窓会HPに掲載しておりますので詳しくはそちらをご覧ください。  
<http://koibuchi-main.jp/>

鯉淵同窓会兵庫支部だより(第17号)

鯉淵ひょうごこの美しい国

同窓生の追悼文

追悼文は、同窓生が故郷を離れてから、故郷に思いを馳せる大切な機会です。今回は、故郷の風景や、故郷の人々、故郷の思い出を、追悼文を通して、故郷に伝えることができました。

## 岩手県支部 総会の開催

岩手県支部総会は令和5年11月19日、北上市の「ふるさと体験館北上」で4年ぶりに開催しました。黒澤会長にも出席をいただき、議案審議もスムーズに進み、新役員も何とか選出していただきました。



## 同窓会県支部・卒期別の活動紹介

総会後の懇親会は学園での思い出やお互いの近況など話に花が咲き、学園寮歌も懐かしく歌い、同窓生の交流が深まった集いになりました。  
今後は若い方々の参加が大切ということも話題になり、検討課題と感じました。



### 24期生北関東大会の開催

令和5年11月14日～15日にかけて、群馬県伊香保温泉において「第12回24期生 北関東大会」が開催されました。

全国から24期同窓生41名と、若林英一同窓会副会長が参加しました。次回は東北地方での開催です。



### 福島県支部総会の開催

令和6年3月9日（土）、JR会津若松駅前の会津若松



ワシントンホテルを会場に、福島県支部総会が開催されました。

19名の同窓生が参加し、同窓会本部からは若林英一副会長が出席され、学園の現在の状況、これまでの経過、今後の方向性等が報告されました。

総会終了後は懇親会が行われ、賑やかに情報交換が行われました。

### 雑穀の母「キヌア」の魅力

茨城県

三浦喜美男（25期生）

南米アンデス原産の雑穀「キヌア」は、インカ帝国の神事の供え物として重要な穀物であったと言う。

キヌアは栄養価が高く、白米と比較すると6倍の食物繊維、9倍の鉄分、6倍のカルシウムを含む。その並外れた栄養価に着目し、欧米諸国では健康食品として注目されている。

さらにキヌアは、アトピーなどアレルギーに悩む人の除食食として利用されているほか、高コレステロールの改善、高血圧など成人病予防、便秘予防、美肌の効果があることから、「雑穀の母」と言われている。



私が国際協力機構（JICA）の技術協力でボリビアに赴任したのは1994年。3年ほどボリビアに住んだ。

このキヌアは標高4,300メートル、ボリビアのチチカカ湖周辺で栽培されていた。（写真：当時の私）

ボリビアの先住民らは、収穫したキヌアを天日乾燥して脱穀。それをキヌアのプチプチとした食感とトマトなど野菜の旨味が絶妙に調和した栄養価の高いスープを作った。スペイン語で「Sopa de Quinoa ソパ・デ・キヌア」と言うが、これがボリビアの人たちの常食、キヌアスープである。

私の場合、ここ15年ほど、ホームベーカリーでキヌアを利用したキヌアパンを作って毎食食べている（写真：キヌア

アで作ったパン）。

〈キヌアパンのレシピ（1斤）〉

- ①強力粉250g、②キヌア30g、③バター10g、④砂糖大さじ1（甘さ控えめ）、⑤スキムミルク大さじ1、⑥塩無（血圧を控える）、⑦水180ml、⑧ドライイースト2.8g

2010年に健康を害したことから、キヌアパンを食べたり、毎朝ウォーキングをしたりして健康管理をしている。

また、南米パラグアイのキャッサバや、インドネシアで経験したパイア栽培も、家庭菜園でチャレンジした。収穫できたが越冬出来なかった。それが課題。

過去の海外経験を今日本でやっているけど、心身の健康に良い。









茨不沖沖沖沖沖沖沖沖沖沖沖鹿鹿鹿宮宮宮宮宮宮宮大大熊熊長佐佐佐福福高愛愛愛香香德山山山広岡島島島  
城明繩繩繩繩繩繩繩繩繩繩繩繩繩繩繩島島島崎崎崎崎崎崎崎分分本本崎賀賀賀岡岡知媛媛媛川川口口口島山根根根

[illegible]

追悼

謹んでご冥福をお祈りいたします。

31 28 27 27 26 26 26 25 25 24 23 23 23 23 20 19 19 17 16 16 14 14 12 11 10 10 7

石澤 山根 岡村 武田 鈴木 山田 三浦 高橋 喜久山 橋大 大字 田中 石川 宇田 出店 升田 太田 山井 藤坂 高田 西田 若林 加藤 須川 須川 田

俊雄 正行 育子 猛見 豐明 陽香 喜美男 政勝 建次 路子 義治 博義 義彦 文夫 幸子 武隆 之夫 貞夫 均子 定夫 和夫 宏信

(東(兵(山(岩(茨(茨(福(茨(岩(沖(熊(兵(兵(茨(愛(兵(北(茨(長(山(茨(秋(茨(京(兵(岐(茨(

京庫口手城島城手繩本庫庫城知庫道城崎口城田城都庫庫城

特  
64 57 54 46 44 36 35 28 27 26 23 20 19 17 14 8  
重田伊富山字日野中中菅池玉蓮  
盛中藤藤岡辺鉄向中山村野間城田嶋  
千潤真勝敦久一修繁茂千豐  
冬之紀彦明美光昭一樹雄代林  
子  
(長(鹿(茨(新(東(千(新(茨(柄(宮(茨(島(東(沖(柄  
野島城渴京葉渴城木崎城根京繩城木

同窓会永年会費

令和5年11月～令和6年7月納入者

17 16 15 15 15 15 15 14 14 14 14 14 13 13 12 8 5 4 2

小林 宮城 浅岡 水野 岩渕 小嶋 佐々木 森本 原崎 蓮田 西田 西向 梅崎 若林 阿川 砂田 西村 佐藤

弘 勝繁 和喜江 富郎 斉 木 勝士 充弘 範子 豊 貞夫 詞郎 孝臣 均 林 宗十郎 義雄 典夫 和一郎

(群)(沖)(宮)(岐)(岩)(秋)(秋)(広)(静)(新)(茨)(秋)(石)(茨)(茨)(栃)(山)(茨)(茨)(新)

馬 繩 崎 阜 手 田 島 岡 渴 城 田 川 城 城 木 口 城 城 渴

通通通通通  
5 5 5 4 3 7 3 7 2 7 1 6 8 6 7 6 5 6 5 6 1 6 0 5 2 5 0 4 7 4 5 4 3 4 3 4 3 3 5 3 5 3 3 3 1  
渡音米田持助羽蛭野藤上戸小福本山下井上那長野曾北堀  
辺居村內留川山田崎濱濱野部林田田下須崎村根藤浩  
栄条正正知和真由利圭祐浩誠弘芳良康智喜木藤浩  
治三一奈輝嗣康美江介也晴藏藏子弘弘美久藤浩  
静滋青(鹿茨干茨枳長茨茨干埼山茨(石(京熊島茨(広(岩熊  
岡賀森北海道兎城葉城木野城城葉玉口城川都本根城島野手本

27 26 26 26 26 26 25 25 25 25 25 25 25 25 25 24 24 24 24 24 24 24 23 23 23 23 23 23 23 23 22 22 22 22 22 21 20 20 20 20 19 19 17

松本 宮嶋 植松 齊藤 中山 後藤 森下 森本 山本 山本 安藤 齋田 渡辺 陣内 岡野 吉川 村田 生田 中川 兼村 竹原 池間 佐藤 新関 池田 本橋 江村 中幡 松本 五十嵐 小野寺 湯口 西村 菊池 大友 浜嶋 菅野 宇田 高橋 鈴木 森谷 平木  
香 紀義 延行 新右衛門 ともえ 秀一 寛 照美 英子 敬宜 くみ子 マサ江 芳江 幹男 千鶴子 良治 敏明 美智子 久津江 純悦 景清 秀雄 貞之 八千代 陽子 隆一 修一 ゆき子 栄 竹男 良明 康章 勝雄 勝夫 洋一郎 啓司 勝子 繁樹 義信 忠彦 尚 勲 芳次 郁夫

岩(長山)福(埼)宮(大)愛(福)富(富)新(千)山(福)愛(兵)長(群)茨(茨)茨(岩)沖(高)島(靜)長(茨)茨(茨)福(福)山(枳)枳(茨)茨(宮)宮(沖)島(愛)埼(福)福(茨)鳥

手野梨井玉崎分知井山山渴葉形岡媛庫野馬城城手繩知根岡野城城島島形野木城城崎繩根知玉島井城取



